

オーストラリア学会報

Australian Studies Association of Japan

第97号

2023年2月27日

<http://www.australianstudies.jp/>

1. オーストラリア学会 2023年度総会・全国研究大会 概要

日本社会は新型コロナウイルス感染症との共存を見据え、社会経済活動の正常化に向けた取り組みを進めつつあります。こうした動きに呼応して、2023年度大会は対面での実施を基本としつつ必要に応じてオンライン実施も取り入れる、対面中心のハイブリッド形式で開催する予定であります。状況によっては実施方法が変更される可能性もありますので、詳細は会報次号にてお知らせいたします。

全国大会の統一テーマは“*Australia and Japan in the Age of Uncertainty*”です。ロシアによるウクライナへの侵略戦争、中国における習近平体制の強権化、アメリカにおける民主主義の危機といった混迷を深め不確実性が高まる世界において、オーストラリアと日本は相互の重要性を増しています。今回の大会では、日本におけるオーストラリアへの理解を深め、それによって両国間の協力関係を進展させることを目的としています。大会1日目のシンポジウムでは、オーストラリアの児童文学・ヤングアダルト小説・ファンタジー小説に焦点を当て、オーストラリアのこの分野の文学がなぜ日本の子どもたちや若者に受け入れられるのか、オーストラリア文学としての特徴がみられるかについて理解を深めます。大会2日目のシンポジウムでは、2021年9月の前政権によって発表され、昨年5月に誕生したアルパネージ政権によっても推進されているAUKUSと原子力潜水艦について、オーストラリアの国防、政治史の中での位置づけ、多文化主義社会への影響、国際的な安全保障といった多角的な側面から討論します。

日時：2023年6月17日（土）・18日（日）

会場：神奈川大学みなとみらいキャンパス（〒220-8739 横浜市西区みなとみらい4-5-3）

会場アクセス：<https://www.mmc.kanagawa-u.ac.jp/about/access.html>

会場責任者：杉田弘也（神奈川大学）

※プログラムは変更される可能性があります。詳細は会報次号にてお知らせいたします。

第1日目：6月17日（土）

09:30-12:00 理事会

12:45 受付開始

13:30 開会セレモニー

14:00-14:40 特別講演

演題未定：ニコル・ムーア（東大 CPAS 客員教授、UNSW）

14:50-17:00 豪日交流基金（AJF）助成シンポジウム1 ※同時通訳あり

Australian success story little known: children/YA/fantasy literature

（オーストラリア児童文学と日本）

司 会： 加藤めぐみ（明星大学）

報 告： 百々佑利子（翻訳家）

さくまゆみこ（翻訳家）

原田 勝（翻訳家）

三辺律子（翻訳家）

鈴木宏枝（神奈川大学）

ニコル・ムーア（東大 CPAS 客員教授、UNSW）

質疑応答・討論

※会場校の新型コロナウイルス関連ルールにより、学内・学外を問わず公式の懇談会を開催することができません。4月以降に同ルールが変更された場合は懇談会を開催する予定です。最終決定は迫って(会報次号、学会 ML、学会 Facebook ページなどで) ご案内いたします。

第 2 日目：6月 18 日 (日)

09:30 受付開始

10:00-12:00 一般個別研究報告

12:00-13:00 昼食休憩

13:00-13:45 総会

14:00-16:30 豪日交流基金 (AJF) 助成シンポジウム 2 ※同時通訳あり

The AUKUS and its implications

(AUKUS とその影響)

司 会： 杉田弘也 (神奈川大学教授)

報 告： ヒュー・ホワイト (オーストラリア国立大学名誉教授)

ティム・スートポマサン* (オックスフォード大学教授)

*オンライン参加

フランク・ボンジョルノ (オーストラリア国立大学教授)

大庭三枝 (神奈川大学教授)

質疑応答・討論

16:45 閉会挨拶

2. 第 12 期第 2 回理事会報告

日時：2022 年 12 月 4 日 (日) 午後 3 時～5 時

開催形式：オンライン (Zoom)

出席者：阿部亮吾、青木麻衣子、藤岡伸明、舟木伸介、原田容子、飯笹佐代子、栗田梨津子、湊圭史、村上雄一、永野隆行、中澤かよ、小野塚和人、佐藤渉、塩原良和、杉田弘也、友永雄吾、安田純子 (以上、理事、アルファベット順)、有満保江 濱嶋聡 (以上、監事)

【報告】

1. 藤岡理事より以下の報告があった。①Nicole Moore 先生 (東大 CPAS 客員教授)、オーストラリア大使館職員とそれぞれ面談し、今後の協力・交流についての確認と意見交換を行った。第 16 回地域研究会 (関東例会) は 2023 年 3 月 25 日 (土) 午後に東大駒場キャンパスにて東大 CPAS との共催で、Moore 先生を報告者として開催される。②2023 年度全国大会の開催形式やプログラムが報告された。AJF からの助成額は 25,000 豪ドルになった。③2024 年度全国研究大会は 6 月 15・16 日に松山大学樋又キャンパスで開催され、開催校担当は湊理事になった。
2. 栗田理事より『オーストラリア研究』35 号が刊行され、掲載論稿は J-Stage および EBSCO にて 2023 年春に全文公開予定であることが報告された。
3. 塩原理事より以下の報告があった。①会報 96 号が発行され、学会ウェブサイトやフェイスブックも運用中である。②オーストラリア学会が加盟している JCASA の日本学術会議主催フォーラムへの共催を承認した。③日本学術会議「学術の中長期的戦略」申請課題「アジア人類史の総合研究体制の構築」への賛同依頼があり、永野代表理事個人としての賛同を表明した。④新規入会者は 3 名、退会者 3 名、会費未納退会者 7 名、終身会員 1 名であった。
4. 友永理事、杉田理事より関西例会が 10 月 15 日 (土)、関東例会が 10 月 29 日 (土) にそれぞれ開催されたことが報告された

【審議】

1. 藤岡理事より以下の提案があり、いずれも承認された。①府中市主催のオーストラリア講座への講師派遣に協力し、講師を推薦する。②2023 年度全国研究大会の一般個別報告申込募集の締切を延長し、協力関係にある海外の関連学会に募集の告知案内を送る。③オーストラリア学会報は 2023 年も例年通り 2 月、4 月、9 月に発行する。

2. 永野代表理事より以下の提案があり、いずれも承認された。①今後も確実に A.J.F の助成金を獲得するために、学会の年間活動計画（例会等）を全国大会でのプログラムと連関させ、それを助成金申請内容に反映させる。②2023 年度大会シンポジウムについて、他の学会との共催での開催を目指す。③2024 年度大会のシンポジウム企画をオーストラリア学会の特徴を活かした内容に工夫する。
3. 栗田理事より投稿要領の改訂が提案され、投稿要領に「掲載が決定するまで原稿には謝辞や科研費等の執筆者を特定できる情報を記載しない」という条項を加えることが承認された。また投稿申込書についても修正を加えることが承認された。
4. 塩原理事より以下の提案があり、いずれも承認された。①日本学術会議からの「日本学術会議会員・連携会員の選考対象者に関する情報提供依頼」について、運営委員 5 名の情報を提供する。②学会ウェブサイト「退会を希望される会員は、学会事務局までご連絡ください。なお年度末までに退会を希望される場合、当該年度の 1 月末までにご連絡ください」という文言を掲載する。
5. 村上理事より、関東・関西例会への補助金について提案があり、現在一律 5000 円のところを上限 10000 円までの実費を支出可能とし、5000 円を超えた場合は運営委員会にて審議・決定し理事会に事後報告することが承認された。

3. 第 31 回地域研究会（関西例会）報告

前川真裕子（関西例会担当理事）

第 31 回関西研究会は 2022 年 10 月 15 日（土）14:00～17:00 に国立民族学博物館「第 3 セミナー室」で対面にて開催した。2 人の発表者を迎え、その共通の発表テーマを「トレス海峡諸島における墓を読み解く」と題し、アイランダーズたちの墓に関する生活史が発表された。

第一発表である神戸大学大学院国際文化学研究院院生の木村彩音氏の「多様な祖先を祀る「最後の家」ートレス海峡諸島民の墓の意匠からー」では、木曜島に焦点が当てられるとともに、1860 年代頃からの真珠貝産業展開によってアジアや太平洋諸島など様々な地域からの人の移住史が紹介された。さらに木村発表では日系の祖先を持つ木曜島のアイランダーズたちが墓の管理を通じて祖先とのつながりを確認していく様子が紹介された。

続いて、第二発表である奈良女子大学・名誉教授松本博之氏の「トレス海峡諸島の「墓」をめぐる社会文化的背景」は、木村発表を受けてトレス海峡諸島の墓に関する儀礼を、親族の議論と関連させながら、より包括的に概観するものとなった。松本氏は、これまでの自身のトレス海峡諸島における研究を総括すると共に、アイランダーズたちの墓の建立および「墓開き(Tombstone Opening)」と呼ばれる儀礼の極めて詳細な調査資料を提示し、墓開きが彼ら自身の民族性を確認する最も特徴的な儀礼の 1 つであることを発表した。

また松本氏は木村氏の今後の研究に関して、「アイランダーズ」とは誰のことを指すのかトレス海峡特有の移動と混淆の状況を包括的且つ精緻に整理していかなければならないこと、そして「オーストラリアの主流社会がアイランダーズの墓建立にどのような影響を与えたか」について整理の必要性があることをコメントとして残した。

4. 第 15 回地域研究会（関東例会）報告

原田容子（関東例会担当理事）

コロナ禍の影響でしばらく休止していた関東例会だが、昨年 10 月に久しぶりに対面での会合を開催することが出来た。参加者の中には遠く福井県からお越しいただいた方、会員からの案内で初めてオーストラリア学会の会合に出席して下さった方などもおられ、フレッシュな顔ぶれが揃った例会となった。

今回ご登壇いただいたのは、2017 年 4 月から 2021 年 7 月まで、朝日新聞社のシドニー支局長を務められた小暮哲夫氏だ（現：朝日新聞 GLOBE 編集部）。執筆された記事や撮影された写真をスライドで提示しつつ、現地での取材活動を振り返って下さった。

シドニー支局の守備範囲は、オーストラリア全土はもちろん、ニュージーランド、太平洋島嶼国にも及び、広い。また取材対象は一般市民から政治家（場合によっては動物?）まで多様だ。加えて、上記期間には豪総選挙、ブラックサマー・ブッシュファイアー、そして新型コロナウイルスパンデミック、と大型案件があったこともあり、小暮氏執筆の記事は数多い。当学会会員で氏の記事に触れた人も少なくないだろう。

そのように多数かつ多様な記事の中で一番読まれたのは、2017 年 7 月に配信された、フードロス削減を目的として、シドニーにオープンした無料スーパー「オズハーベスト」についてのものだったようだ。日本でもフードロス問題に関心が高まって来ている証左なのだろうか。

今回の例会の場では、オーストラリアと中国、中国と島嶼国の関係について特に関心が寄せられた。講演後の質疑応答の中でもそのトピックにつき複数の質問が出、しばしディスカッションになる場面もあった。

個人的に印象に残ったのは、2018 年 2 月の段階で朝日新聞社が「アボリジニー」の表記を、正式に「先住民

(アボリジナルピープル)」、あるいは「豪州の先住民」に変更していたことだ。そのことは小暮氏がオーストラリアデーを巡る論争について書いた記事の中で解説されている。日本国内ではまだ「アボリジニー」と記載されているケースが散見されるだけに、大手メディアによるこのような表明は、実に重要だと考える。

昨今、日本の各メディアは海外要員を縮小する傾向にあり、朝日新聞社でも小倉氏の後任は発令されていない。日豪両国が安全保障の面で接近し、もっと広く一般にもオーストラリアに関心を持ってもらいたい局面だけに残念だが、小暮氏には今後も折々に Down Under へ目配りして下さることを期待したい。

5. 第16回地域研究会（関東例会）案内

※会員以外の方も参加できます。入場無料

2019年11月のデイヴィッド・ロウ教授の講演から約3年ぶりに、東京大学アメリカ太平洋地域研究センター（CPAS）のオーストラリアン・スタディーズ担当客員教授に着任された方に、関東例会へお越しいただくことが叶った。

昨年着任されたニコル・ムーア教授のご専攻はオーストラリア文学。検閲の問題、また女性の著述について詳しい。今回は、1950年代から80年代にかけ、オーストラリアで意欲的に左派系書籍の出版を手掛けた Australasian Book Society (ABS) についてお話しいただく。冷戦下だった当時、ABSは“知識の戦い”に書籍をどのように活用したのか。これまでオーストラリア文化史を語る際に顧みられてこなかった分野に光を当てる。

日時：2023年3月25日（土）14:00～16:00（受付開始：13:30）

会場：東京大学駒場キャンパス 18号館 4階 コラボレーションルーム 3
駒場地区キャンパス 18号館地図

https://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam02_01_17_j.html

※例会当日は土曜日のため、18号館の入口（自動ドア）が内側からしか開きません。ついては、入口付近に人員を配置するようにしますので、その者にお声掛け下さい。

※尚、14:00の開始時刻を過ぎて到着された場合は、下記連絡先までご一報下さい。

連絡先：原田容子 yoko.oz.harada@gmail.com

※会員・非会員ともに事前の参加申込が必要です。参加申込は以下からお願いします。

<https://forms.gle/XmRjWkxQzVuT1jaMA>

講演者：ニコル・ムーア 東京大学 CPAS 客員教授（ニューサウスウェールズ大学）

演題：The Australasian Book Society: Community and Dissent in Australia's cultural Cold War

講演要旨：

“To encourage mass participation in and responsibility for the publication of progressive Australian literature” was one of the masthead aims of the Australasian Book Society — perhaps a unique venture in the cultural Cold War. A mid-twentieth-century, book-club style publisher, the ABS promised four books a year to members, distributed through unions and the organised left in Australia, including the Communist Party, and offered its working-class readers editorial involvement, literary development and reading community. Producing a long list of notable books by Australian, New Zealand and other regional authors through the polarised years of the Cold War, the ABS is a key antipodean example of books used as “weapons in the war of ideas” (Hench 2011). Its marginalized position within the industry in Australia—even as it refused the capitalist industrial model—made it a forum for dissent, or for alternative versions of both the nation and community, or identity. Its role as a conduit for Australian titles released by Eastern Bloc and Chinese publishers through the 1950s and 1960s is also telling, as a form of soft diplomacy crossing deep ideological divides.

This paper introduces new research on this neglected aspect of Australia's cultural history, from a collaborative project with Dr Christina Spittel funded by the Australian Research Council. Much yet remains to be established about both the model of production and the readership mobilised by the ABS, as well as its impact on heated national debates in mid-century Australia. In so far as the new Cold War Studies are disrupting superpower polarities to review this period through the lens of decolonisation and the murderous hot wars sponsored in the Global South (Kwon 2010, Day and Liem 2010, Duara 2011, Djagalov 2020, Popescu 2020), the ABS can contribute a useful cultural instance.

使用言語：英語

6. 終身会員制度について

会員として長年にわたり本会の発展に多大な貢献をしたことへの感謝と、学会活動への参加継続を目的に、終身会員制度を導入することが、2021年度全国研究大会に併せて開催された総会にて承認されました。

なお終身会員は呼称であって、会員種別ではありませんのでご注意ください。2022年度分の会費から対象となります。

【対象者】

会員のうち、次の(1)、(2)いずれにも該当し、本人からの申し出があった方を対象とします。

- (1) 一般会員（院生を除く）で、10年以上の会員歴を有し、当該年度から遡って10年間において会費を完納している方
- (2) 当該年度中に満70歳以上となる方

【資格】

終身会員の資格は、正会員と同等です。

【会費】

終身会員となるには、会費5年分に該当する額〔¥40,000〕を一括納入していただく必要がございます。なお終身会員の会費を納入いただいた後に退会をしても会費は返却できません。

【お申し込み方法】

- (1) 終身会員制度の利用を希望される方は、1月1日～2月末日までに事務局にメールにてその旨をご連絡ください。その際に①お名前、②生年月日、③現住所をお知らせください。
- (2) 事務局が10年間の会費納入歴を確認し、制度適用の可否をご連絡いたします。
- (3) 会費の振込用紙をご利用いただき、3月末日までに会費をお支払いください。

【その他】

終身会員になってから当初5年間は『オーストラリア研究』をご登録住所に送付させていただきます。ただし6年目以降は毎年、印刷物をお送りする際、次年度以降も印刷物の送付を希望されるかどうかを確認させていただきますので、印刷物に同封の返信用はがきにてご連絡ください。年度内最終日までにお返事がなかった場合には、「印刷物送付の希望なし」と見なして、印刷物の送付を停止させていただきます。あらかじめご承知おきください。

7. 会費納入のお願い

年会費の請求は年度の始まり4月に行いますが、年会費が納入されると、納入時期にかかわらず未払い年度がある場合そこへ充当されます。たとえば2022年5月に年会費を納入しても、2021年度未払いの場合、それは2021年度の会費となります。すなわち、2022年度は未納ということになります。また2020、2021年度未払いの場合、2020年度分の会費納入になります。

<会費が未納となっている会員の皆様へ>

会費が未納の皆様へは、請求を別便にて送付します。未納年度分（2021年度を含め最多3か年）を速やかに振込票にて納入願います。未着の方はアカデミーセンター「オーストラリア学会」担当宛までお知らせ願います。なお、会費振込票に会員名の記載がない場合、振込会員を特定できないため、必ず会員名をお書きください。また原則領収書は発行していません。郵便振替票の受領書などをご利用願います。

会費未納の会員の皆様には、当該年度の会費納入が確認され次第、学会誌『オーストラリア研究』（現在2022年3月発行、第35号）までをお送りしております。事務局では3か年分の在庫を保管しておりますので、順次発送しておりますが、お手元に届くまで若干時間がかかる場合もあります。会費納入にもかかわらず未着の学会誌がありましたら、恐縮ですが、学会事務局（アカデミーセンター）にご連絡ください。

8. 「マイページ」登録と内容更新のお願い

オーストラリア学会では会報の電子化を進めて参りました。2019年度まで学会直前号のみ他の配布物と併せ紙媒体で発行していましたが、2020年度より学会直前号を含むすべての会報を電子化しました。会報電子版は学会ウェブサイトに掲載されますが、発行のお知らせは「マイページ」に登録された電子メール宛てに送られます。アドレスの登録・確認・更新をお願いいたします。

マイページ URL : <https://www.bunken.org/asaj/mypage/User>

9. 『オーストラリア研究』投稿募集、投稿要領・投稿申込書の一部改訂および研究文献目録掲載のお知らせ

オーストラリア学会では、『オーストラリア研究』に掲載する論文を募集しています。投稿は随時受け付けております。2022年12月4日付で投稿要領および投稿申込書を一部改訂しました。投稿要領に関して、査読における匿名性の確保のため、投稿時に執筆者を特定できる情報を記載しない旨の文言が追加されました。投稿申込書については、非会員の有無と非会員の投稿料入金状況に関する欄を新たに設けました。改訂版の投稿要領・投稿申込書・投稿先はウェブサイトをご参照ください (<http://www.australianstudies.jp/publish/youryou.html>)。投稿の際には、必ず改訂版の投稿申込書にご記入の上、お申し込みください

(<http://www.australianstudies.jp/publish/entry-journal.html>)。2024年3月刊行予定の第37号の投稿は2023年8月末で締め切ります。不明な点などがあれば、編集担当理事・栗田梨津子 (kurita@kanagawa-u.ac.jp) までお問い合わせください。

第12号以降、会員の研究文献目録を掲載しております。引き続き会員の協力をお願いします。発表された著書、論文、報告書、翻訳などの中から、オーストラリア学会の趣旨に関係する研究文献を選び、電子メールでお知らせください。締め切りは2023年10月30日です。記入例はバックナンバーを参照し、掲載書式に準ずる形でお送りください。

投稿先：〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター「オーストラリア学会」担当

TEL : 03-6824-9372 FAX : 03-5227-8631 Email : asaj-post@bunken.co.jp

『オーストラリア研究』ウェブサイト : <http://australianstudies.jp/publish/index.html>

【オーストラリア学会事務局】(各種届出・連絡先)

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター「オーストラリア学会」担当

TEL : 03-6824-9372 FAX : 03-5227-8631 Email : asaj-post@bunken.co.jp

会費振込先 : 00190-3-157063 加入口座名 : オーストラリア学会

※ 本会報は学会記録のほか、会員からのご意見や著書・新刊情報などを掲載します。学会事務局までお送りください。なお紙面の制約上、掲載できない場合がありますことをご了承ください。

[編集担当 : 安田純子 (会報/庶務担当理事)]